



# かせかけ

No. 20

Okinawa Prefectural College of nursing  
沖縄県立看護大学広報誌 2012.6.1



どんな講義？  
参加させて



## CONTENTS

- 新入生歓迎あいさつ ..... 2
- ようこそ看護大学へ ..... 3
- 新入生の声 ..... 3
- シリーズ のぞいてみよう看護大学  
私たち、看護大学でこんなことを教えています！ ..... 4
- 卒業生の今 ..... 5
- 課外活動あれこれ ..... 6

- ハワイの学生がやってきた ..... 6
- 教育 クローズアップ  
離島看護充実へ 大学院に新分野 ..... 7
- 教職員の動き ..... 8
- お知らせ ..... 8
- 平成24年度の主な大学行事 ..... 8

# 新入生歓迎あいさつ

学 長 前田 和子



新入生の皆さん ご入学おめでとうございます。

私たち教職員は、皆さんを本学の一員として迎えられたことを大変うれしく思っています。さて、大学と高校の違いはどこにあるでしょう。

大きな違いは学生(生徒)の年齢です。高校生のほとんどは18歳未満で構成されています。18歳未満の子どもたちは児童福祉法をはじめ多くの法律で保護されています。でも、18歳になった今、皆さんは多くの自由を手に入れると同時に、自分のことは自分で責任をとって行かなくてはなりません。「自己責任」です。

大学は教職員が学生に対して一方向的に行う教育サービス機関ではありません。

では、何かといいますと、大学は学生と教職員で構成される学術的共同体(academic community)です。つまり、教職員と学生が共に作り上げていく一つの社会です。教員に対して、もっとわかる授業をして下さい、もっと質の高い教育を望んでいますと要求する権利が学生にはあります。でも、友達が授業中におしゃべりをしてうるさいから注意して欲しいと教員に要求するのはどうでしょうか？それは学生の皆さんの責任でもあります。遅刻やおしゃべりのために授業に集中できないから「止めよう」と学生同士が注意し合うことが大事なのです。学生の皆さんにも自分たちの学習環境をよりよくしていく責任と義務があります。

ハーバード大学のマイケル・サンデル教授は「最高の教育とは、自分自身でいかに考えるかを学ぶことである」と言っています。自分たちがどのように行動すればよいかを知るためには、自分自身で考え、学生同士で話し合うことがとても大切です。

今年の学生たちはどのようなコミュニティを作るのだろうか、去年とどうちがうのだろうかと考えたときに、私は今更ながら面白いことに気づきました。

大学は毎年4分の1が入れ替わります。学生数からいうと25%が変わる。でも、学生集団、学生コミュニティの行動や雰囲気は昨年とどう変わるのだろうかと予測するときに、旧4年生が去り、新1年生が新たに加わると言うことは、その変化は5分の2、つまり、40%です。これはかなりの割合です。新年度は大学のコミュニティをすばらしいものに大きく変化していくチャンスでもあるのです。

看護職者になる前に、常識と教養を備えた一市民・一社会人として成長することを社会はあなた方に期待しています。少々失敗し、脱線する結果になったとしても、自分たちで考え行動できることはすばらしいことです。大学での4年間、新入生の皆さんもどうぞ、先輩たちと新たな大学づくりに積極的に参加して下さい。

私たち教職員も皆さん方の自主性／自律性をひきだせるような教育あるいは支援ができるよう努力していきます。共に頑張りましょう。



# ようこそ看護大学へ

学生会会長 3年次 諸見里 滋

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。皆様のご入学を学生会一同、心から歓迎いたします。ここで、本学の紹介を少ししたいと思います。

まず、本学では「看護とは何か」ということからはじめ、その理論や方法について講義や演習、実習を通し学んでいきます。

ここで、少しイベントやサークルについて紹介します。本学の大きなイベントとしては、9月に行われる看大祭や5月に行われる渡嘉敷島研修などがあります。その他にも、球技大会やオープンキャンパスなどのイベントを学生会が主体となり企画、運営しています。また琉球大学、名桜大学と連携し活動を行う「学生コンソーシアム」では、他大学の看護学部との学生と交流を深めることができ、将来、医療の現場に出た際に相談できる仲間を作ることができます。

今年の新生歓迎球技大会には、1年次の約2/3以上が参加してくれました。新入生の皆さんが楽しいスタートをきれたなら、嬉しい限りです。勉強はもちろんですが、看大祭や学生コンソーシアムなどの活動に積極的に参加することで今後の視野も広がり、より充実した学生生活を送ることができると思うので、新入生の皆さんにも積極的に活動してほしいです。

一緒に楽しいキャンパスライフを送りましょう。



## 新入生の声

入学式終了後、新入生とのつながりの第一歩としてウェルカム・パーティーが開催され、学部、別科助産専攻、大学院の新入生とその保護者、在校生、教職員が一堂に会した。学生会長の諸見里滋さんによる乾杯の音頭でパーティーはスタート。三線サークルによる演奏も行われ、会場となった体育館は和やかなムードに包まれた。新入生同士でメールアドレスを交換したり、在校生のアドバイスを熱心に聞いたり、学生間の交流や情報交換を行う姿がみられた。

助産師になりたくて本学を目指したという学部新入生の知花桐香さんは「友達と関わりながらコミュニケーション能力をあげたい。サークルの美ら笑らばーに興味がありません。」と学生生活が始まるのを楽しみにしている様子。また、福岡県出身であり、神奈川の大学病院で看護師として勤務

した経験をもつ別科助産専攻新入生の山川由紀さんは、昨年10月に沖縄の病院で働くつもりで来沖し、そこで初めて別科助産専攻の入学試験のことを知り、猛勉強をしたという。「もともと助産師になりたかった。沖縄に来てみて、子どもさんだし、人も優しいし、ここで助産師の勉強をできるのはとても良いと思った。やっと夢がかなったという感じ。1年は短いので、きれいな沖縄の海を眺めて癒されつつ、がんばりたい。」と述べた。さらに、大学院博士前期課程に入学した饒平名かおりさんと岡崎実子さんは、県内で看護職として働きながら大学院で学ぶ。饒平名さんは「臨床現場で看護教育に携わる立場なので、大学院で学び、臨床の看護教育の質をあげたい。また、自分自身のスキルアップもしたい。」と抱負を述べた。

別科助産専攻  
に入学した  
山川由紀さん。



学部に入学生した  
知花桐香さん。



大学院博士前期課程に  
入学した岡崎実子さん(右)  
と饒平名かおりさん(左)。





# 私たちこんなことを 教えています！**基礎看護**

基礎看護とは、看護はどのような実践か、人間はどのような存在か、そして看護していくにはどうしたらいいのか、を理解する(頭づくり)。その後、日常生活に密着した看護技術や、診断治療に伴う看護技術について学び、対象に必要な看護を判断・実施・評価する能力を培う(技づくり)。頭づくりと技づくりを経て、一人の患者さんを受け持って実際に看護を行う。その後、自ら行った看護を評価し、今後の課題を明確にする。



基礎看護の教員

## さあ 看護の勉強スタート！まずは頭づくりから技づくり

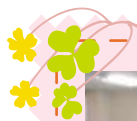
4月、新入学生の皆さんは、看護の勉強のスタートだ。しかし、いきなり食事介助や注射などの看護技術を学ぶわけではない。まず、1年次前期は、看護とは何か、人間はどのような存在か、そして、看護していくにはどうしたらいいのかということを理解する、すなわち、頭づくりをする。授業は、グループディスカッションを多く取り入れ、メンバー同士で「看護って何だ？」をとことん話し合う。



1年次後期になると、食事介助などの日常生活に密着した看護技術、2年次前期には、さらに経管栄養法などの特殊な看護技術、3年次前期は採血などの診断治療に伴う看護技術を学ぶ。授業内容は、学習段階をふまえ、より難易度の高い看護技術の修得に取り組むことができるように組み立てている。学生はグループで学習し、グループメンバー同士や教員による技術チェックとフィードバックを受け、技術の修得レベルを高める。

## 看護を行い、評価して課題を見いだす

2年次後期の臨地実習で、学生は初めて患者さんをひとり受け持ち、看護を行う。実習終了後は、受け持ち患者さんの看護の必要性を判断できたかなどの視点から、学生が自ら行った看護を評価し、今後の課題を見いだして、次の段階の学習に進んでいくことができるよう私達教員が関わっている。



食事介助の演習では、実際に食事の準備を学内食堂「エンジェル」にお願いしています。



# 卒業生の今

## 沖縄市役所 市民健康課 特定健診係

沖縄市役所の市民健康課には、予防係、母子保健係、健康推進係、特定健診係の4つの係があり、取材に協力してくださったのは、市民健康課の皆様です。

沖縄県立看護大学の卒業生は、この係だけで5人います。

取材当日にお会いできたのは、右側1番手前(比屋根千映さん)、右側4番目(當眞春菜さん)、左側2番目(喜舎場佳奈さん)の3人でした。(写真右)



市民健康課には正職員、臨時職員あわせて約50人の方々働いており、そのうち保健師は15人ほどです。特定健診係では8人の保健師が働いています。係長も男性保健師です。

特定健診と特定保健指導が主な業務ですが、がん検診もこの系の業務なのだそうです。健診受診後の結果を説明し、病院受診が必要な方には病院受診をすすめます。

それでも、経済的な事情などで病院に行けない方や、病院で治療中なので、健診は受けなくてもよいと考えている方々もおられるとのことでした。

受診率を上げて、健康度を高めるために、経済的な支援が必要な方々には福祉の制度やサービスを紹介するなどして、他部署の職員の方々や病院とも連携をとりながら、市民がよりよく暮らせるためのお手伝いをしているとのことでした。

職場の雰囲気はとてもよいそうです。7期生の喜舎場さんは、「住民の方に顔をおぼえてもらい、声をかけてもらえるとうれしい。みなさんの健康づくりのお手伝いができると思うとやりがいがある。」と話していました。



7期生の  
喜舎場佳奈さん





# 課外活動あれこれ



## 福岡、広島研修を通して

2年次 渡名喜 竜次、嘉手納 樹奈

平成24年3月23～29日に、「かんたま祭(福岡)」、「国際ケアリング学会(広島)」での学生交流集会に参加して印象に残ったことを紹介します。

九州の10大学(看護系大学)の学生が共同で開催した「かんたま祭」に参加しました。突羽(とっば)隊や華莉踊子エイサー隊がオープニングを飾っていました。自分たちで振り付けを考え、地域のイベントで活動していることを紹介していて、同じ看護学生として「自分から何かをする」という姿勢に刺激を受けて私達の気持ちも高まりました。九州の幅広い地域から病院紹介もあり、将来就職先を考えるのに役立つ情報収集が出来ました。

国際ケアリング学会の学生交流集会では、九州・沖縄・広島・東京の学生が参加して、学生の活動報告と質疑応答が行われました。とくに、日本赤十字看護大学の東京から参加した学生からは、看護の国際学会

(ICN)に学生も参加していく取り組みが紹介されて、グローバルな視点での情報も必要だと知り、自分達の考えを深める良い機会になりました。

他にも実習の苦勞など看護学生としての共通の話題を通して、今後の大学生生活に生かせる情報交換が出来ました。地元の美味しい料理を紹介してもらい、楽しい交流会をもち、これからも看護学生、将来は看護専門職者の仲間として支え合える貴重な宝を持った研修でした。



## 性・命の達人キラリサークルの活動

4年次 上原 奈々、山根 千佳代、安岡 香

私達は、看護大学生という立場から専門知識を生かして同世代の若者に性に関する正しい知識の提供と、「自分も相手も大切にすること」を対象者とともに考える活動をしています。これまで、近隣の大学や中学校での出張講義や性教育ブースの出演(デートDVパネル展示・赤ちゃん人形抱っこ体験・妊婦体験等)、大学生対象の活動では性感感染症や望まない妊娠を防ぐために、模型を用いたコンドーム装着体験を実施してきました。

昨年度(平成23年度)は活動範囲を広げ、宮古島の3校の中学生(約280名)を対象に妊娠・出産・男女交際を正しく知って将来を考えてもらう活動も行いました。大きな荷物をメンバー25名で抱えて宮古島まで出かけ、中学生から「貴重な体験」、「初めて学ぶこと」、「母親に感謝したい」などの感想をもらい、大きな感動をいただきました。私達は「教える」のではなく「ともに考える」立場にあり、対象者に受け入れら

れやすい存在であると実感し、「私たちだからこそ伝えられる」という使命感を再認識しました。

また大学内では、専門の講師を招き、「命と食」や「子宮頸がんと予防ワクチン」についての講演会を開催しました。私達は、専門的知識を得てそれを活動の中で対象者に情報提供していくことの大切さと責任を自覚しました。今後も学びと活動を続けていきます。(平成23年度是那覇市NPO活動支援センターの助成金を得て活動しました)



## ハワイの学生がやってきた!

平成24年3月24日(土)から3月31日(土)の7日間の日程で、米国ハワイ州のカウアイ島にあるカウアイコミュニティカレッジの学生2名とカピオラニコミュニティカレッジの学生5名の合計7名の学生、および、引率教員2名が来学し、本学での研修プログラムに参加した。

本学では、2001年から、ハワイ大学、カウアイコミュニティカレッジとの国際交流協定に基づく交流事業を行っており、毎年、本学から学生を両大学に派遣する3週間のセミナーを実施してきた。ハワイからの学生派遣は今回が2回目となるが、今回はカウアイコミュニティカレッジの学生だけではなく、ハワイ大学傘下のコミュニティカレッジであるカピオラニコミュニティカレッジからも学生が参加し、賑やかな研修プログラムとなった。両カレッジの学生は、カウアイコミュニティカレッジの「海外国際研修」(International Study Abroad)に単位登録しており、単位を互換することが可能となっているとのこと。

研修プログラムは、終始本学学生の積極的なサポートのもとで進められ、両カレッジの学生達は沖縄の歴史や文化、看護に関する講義受講や医療施設の視察のほか、茶道や浴衣着付けの体験、ホームステイなどを通して、沖縄と日本の文化および保健医療の理解と学生間の交流を深めた。また、ひめゆりの塔や平和記念資料館などを見学し、平和

を促進することの重要性を再確認した。

学生のシェインさんは、「皆さんのフレンドリーで協力的なこと」に感謝している。沖縄と日本は同じだと思っていたが、文化を学び、それぞれに違う文化であることが分かった。今回の研修プログラムに参加して、視野が広がった」と研修プログラムに参加した感想を述べた。



ハワイの学生と教員、および、研修プログラムの企画・運営に関わった本学の学生・教員

# 教育 クローズアップ 離島看護充実へ 大学院に新分野

○文部科学省プログラム 専門看護師・薬剤師等医療人材養成事業 「島しょにおける包括的専門看護師の養成」

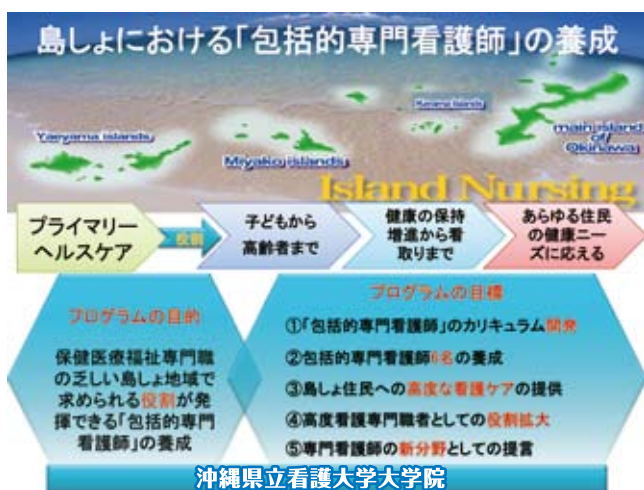
## 離島看護充実へ、島しょにおける包括的専門看護師養成

教授 神里 みどり

平成23年度の文部科学省の事業「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」に本大学院が応募し、看護系38件、薬学系33件の公募の中から、見事本大学院の「島しょにおける包括的専門看護師の養成」事業(事業責任者:前田和子)が採択されました(看護系の採択6件)。

本補助事業の目的は、保健医療福祉専門職の乏しい島しょ地域で求められる役割が発揮できる「包括的専門看護師」の養成を目的としています。本大学院の先端保健看護分野の島しょ保健看護領域に位置づけられた新規のプログラムとして、平成24年度からスタートしました。科目数は、専門看護師の新科目基

準や特定看護師の基準の単位数にならぶ「40単位」であり、島しょにおける専門看護師に特化した専門的な内容になっています。八重山と宮古島の各島々から入学生2名を迎え、テレビ会議システムなどを活用した遠隔教育や離島実習などの実践現場での高度な実践能力を養うための教育プログラム内容になっています。この新たな専門看護師の登場で、離島・へき地での保健医療福祉の活性化や質の向上が期待できます。次年度も新たに学生を募集致します。沖縄から発信するこの新しいプログラムに、多くの方々の応募をお待ちしています。



○厚生労働省地域医療再生基金 「島しょ・へき地の看護職者の研修事業」

## 離島・へき地看護研修事業スタート

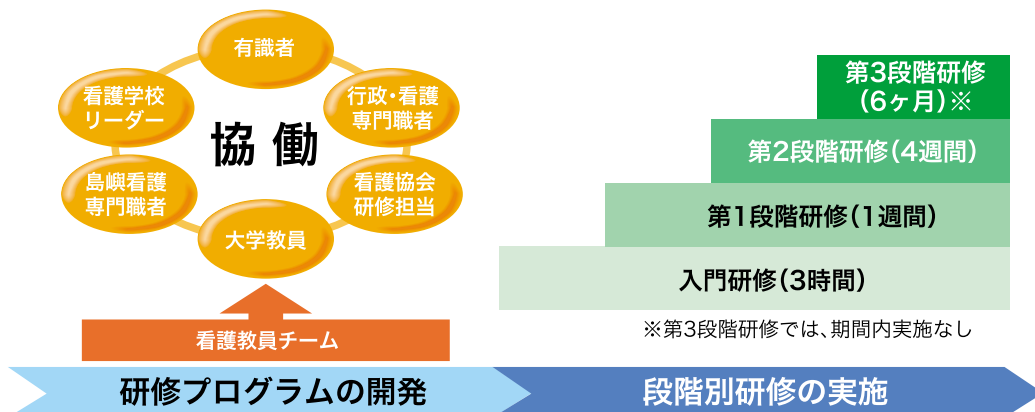
教授 大湾 明美

島しょ県にある本学は、小さな島の隅々で勤務する看護師・保健師・助産師にも看護の質を高める使命があります。そのため、離島・へき地の文化や生活に密着し、そこで暮らす人々が求める看護が実践できるような知識や技術を精選し研修プログラムを開発し、研修を行うことになりました。

研修プログラムは、大学の看護教員でチームを構成し、有識者、行政、教育者、当事者(島しょで勤務する看護職者)の協働で

開発します。研修は、看護職のみんなに受講を呼びかける「入門研修」から段階別に開催します。そして、将来的には島しょ看護を専門的に学ぶ「島しょ看護認定看護師」(仮称)の申請準備をしたいと考えています。

事業の助成は、県医務課が所管する厚生労働省の地域医療再生基金を活用し、平成24年度から2年間です。



# 教職員の動き

## 📎 就任・転入 <平成24年4月>

### 就任

特任教授 蝦名美智子	准教授 小池 秀子	准教授 佐久川政吉	准教授 仲宗根洋子
講師 謝花小百合	講師 田場 由紀	講師 牧内 忍	助教 糸数 仁美
助教 丸山 義浩	助教 山本 真充	助手 伊良波理絵	助手 玉城 咲
助教 山口 初代	助手 與座千代子	総務課長 安次富 均	

### 転入

学務課長 新屋 幸一	副参事 比嘉 清	主任 松澤 裕子
主査 砂川真喜子	主任 砂川 祐矢	主任 松川 善樹

## 📎 退職・転出 <平成24年3月>

### 退職

教授 石川りみ子	特任教授 植田 悠紀子	准教授 野村 幸子	講師 田場真由美
助教 宇良 俊二	助手 伊牟田ゆかり	助手 上原 梨那	

### 転出

副参事 鉢嶺 清典	総務課長 玉城 昌常	主査 宇根 良享
主任 玉城 辰也	主事 知花 優樹	附属図書館 仲村渠重政



## オープンキャンパス2012

お知らせ

2012.7.28(土)  
午前10時～午後3時

## 第14回看大祭

2012.9.22(土)・23(日)

詳しくは大学ホームページをご覧ください。

## 平成24年度の主な大学行事(平成24年4月～平成25年3月)

4月4日(水)	入学式	11月17日(土)	特別選抜入試(看護学科)
4月9日(月)	前期授業開始	11月17日(土)	推薦選抜・社会人特別選抜入試(別科助産専攻)
5月15日(火)	開学記念日	12月13日(木)	卒業論文発表会
7月28日(土)	オープンキャンパス	1月19日(土)～20日(日)	大学入試センター試験
8月19日(日)～9月7日(金)	ハワイ研修	2月12日(火)	一般選抜入試(別科助産専攻)
9月15日(土)	大学院入試	2月25日(月)	一般選抜入試(前期・看護学科)
9月22日(土)～23日(日)	第14回看大祭	3月12日(火)	一般選抜入試(後期・看護学科)
10月1日(月)	後期授業開始	3月15日(金)	卒業式

## かせかけとは

琉球古典舞踊七踊りの一つです。総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」・「感性」は、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育てる教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。



琉球古典舞踊「かせかけ」に用いる道具

## 沖縄県立看護大学

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号  
TEL. (098) 833-8800(代表) FAX. (098) 833-5133  
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>

■編集 沖縄県立看護大学／広報・情報専門部会  
■発行 平成24年6月1日

沖縄県立看護大学

検索